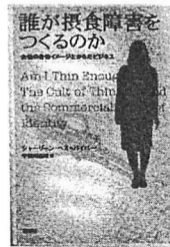


{本のつくり手による新刊紹介}

編集者・翻訳者・営業担当など、本をつくるひとたちに、担当した本を紹介してもらいました。

訳者が教えている大学では近年、不機嫌な女子学生が増えており、尋ねてみると、おなかが減っていて気分が悪いんだそうです。女性として成功するには、そうまでしてスリムでないとうまでしてスリムでないのでダメだと思っているのです。本書はアメリカが舞台ですが、過度なダイエットや過食症、拒食症などの摂食障害の原因が個人にあるというより、巨大マーケット市場を生み出す資本主義と家父長制にあることを、女性たちの証言からつまびらかにしたベストセラーの翻訳です。

(新曜社 松田昌代)



誰が摂食障害を
つくるのか
女性の身体イメージと
からだビジネス

シャーリーン・ヘス＝パイパー／著
宇田川拓雄／訳
新曜社／刊 2,992円(税込)